

映画の現場から

錦織監督



●○○●35

モントリオール世界映画祭レッドカーペット報告②

モントリオール世界映画祭のメイン会場の様子を見たとき、以前フランスのキノタヨ映画祭に招かれた際に見た、パリのシャンゼリゼ通りの映画館に並ぶ観客たちの姿を思い出した。

国は違えどモントリオールでも映画が好きなたくさんのお若男女が集まっていた。自らの目、感覚でポスターのデザインや口コミ情報を仕入れ、映画の「二オイ」をかき分け、目当ての映画に並ぶ人々の顔を見るどころかもうれしくなってくる。

文字通り映画のお祭りだ。旅行だけではわからない

公開に向け 力もらう

いその土地その土地に生きる人々の営みや生活様式などが伝わるのが映画の魅力のひとつだ。簡単に伝えきれないその国ならではの文化が2時間余りに凝縮されているのだから映画の役割は大きい。そのことに気づいているからだろうか、映画が多くのお客に支えられていることがうかがえた。

映画「渾身」は市内のシネコンで3回上映され、回を重ねるごとに観客が増えていった。モントリオールに限らず国際映画祭での観客は厳しい。途中退席する場面もよくあると聞いていたが、退席する人がいなかったばかりか、エンドロールと同時に拍手がわき起こった。私たちは素直に喜んだ。

質問は予想通り古典相撲に集中したが、何よりうれ

しかったのはシンプルに、物語に登場する家族の心を理解してくれたこと。隠岐の島に行ってみたくてという言葉を多く聞いたのもうれしかった。人情や地域のコミュニティ、恵まれた自然環境が当たり前ではない世界の中で、隠岐がまるで宝島のように映ったのではないかと思っている。

エントリー作品の関係者のパティエが毎日行われ、いろいろな国の製作者たちと交流できた。このパティエでも映画祭創始者のセルジュ・ロジック氏は大変な人気者で、多くのメディアや製作者たちに囲まれていた。そのセルジュ氏に部屋に招かれ直接感想を聞くことができたのは前回書いたが、氏のお褒めの言葉はリップサービスではなかった。

「渾身」の主演俳優に主演女優賞のプレゼンターの大役を任されたのだ。青柳翔君が見事に大役を果たした。KONSHINというタイトルコールが会場に響いた。主催者からの最高のプレゼントで、公開に向けて大きな力をもらった気がした。今まで応援してくれて多くの皆さん、渾身に関わった全ての皆さんに心から感謝したい。そして一人でも多くの皆さんに渾身を見ていただきたと思う。

(錦織良成・映画監督)
 第2、4金曜掲載



モントリオール世界映画祭で主演女優賞のプレゼンターを務める俳優青柳翔さん